

2024年11月26日
井関農機株式会社2024年12月期 第3四半期決算説明会
質疑応答要旨

(問1) 来期の業績イメージを教えてください。

(回答)

- ・国内は、足元の市場環境の回復を弾みに、来期については上向いてくると期待している。海外は、北米は市場環境の大きな改善は見込めないものの在庫調整が進んでいること、アジアは底打ちしたのではと見ていることから、近年好調の欧州を中心として引き続き伸ばしていきたい。プロジェクトZの施策による効果は、来期についてはまだ本格的には出てこないが、成果が出てくる2026年、2027年に繋げていくためにも増収増益トレンドを作っていく。

(問2) 今後の製品価格の引き上げに関して、どのように考えているか、地域別に教えてください。

(回答)

- ・現時点では原材料価格の高騰分は価格に転嫁できていると考えているが、今後も引き続き下請先や購買先から値上げを要請される可能性がある。また、為替の影響についても注視しなければならない。国内外それぞれの市場において競争力を踏まえ、必要に応じて価格改定を検討していく。

(問3) 来期の北米市場をどう見ているか教えてください。

(回答)

- ・想定より市場の調整局面が長引いている。当初17万台レベルで落ち着くと考えていたが、今年は15万台をやや切るレベルとなる見込み。来年も同じレベルになると見立てているが、大統領選の結果を受けた金融政策や環境問題への対応の変化など、今後の政策が市場にどのような影響を与えるのか注視していく。

(問4) 来期の国内農機需要および当社の国内売上高は、どのレベルまで回復する可能性があるのか。

(回答)

- ・米価の高まりを受けて足元の市場環境は回復してきている。また、来年のコメの民間在庫量想定を見ても、引き続き需給はひっ迫すると見られている。そのため、来期も市場環境は改善すると見込んでおり、農機製品を中心に増販を図ってきたい。

(問5) プロジェクトZの足元の進捗状況やリスクがあれば教えて欲しい。
また、何かポジティブな効果が出ている施策はあるのか。

(回答)

- ・プロジェクトZ施策の発表後、熊本工場で生産終了となる2025年12月末までの間に生産現場で混乱が生じないか懸念をしていたが、現時点では計画通り進捗しており、生産終了まで大きな問題なく生産できる見込み。また、松山工場へのコンバイン生産の移管についても、順調な稼働に向けて従業員の教育プログラムや設備の導入など計画に沿って進捗できている。ポジティブとまではいえないが、これを成果として捉えることもできるのではないかと。重要な施策が続くが毎週進捗を確認しながら進めていきたい。

以上

将来予測に関する免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、2024年12月期第3四半期決算説明会開催日(2024年11月14日)時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。